



「サステナブル&グローバル」

常務執行役員
八並 敬之

当社は1933年に姫路の地で創業、昨年90周年を迎えました。北欧の子会社であるOVAKOは400年以上、インドの子会社であるSSMIも50年以上の歴史を有しています。ここまで道を切り拓いて来た先人のご努力やご尽力に改めて深い敬意を表します。

一方で時勢のうねりはますます大きくなっています。この数年間でも、新型コロナウイルスの流行、温暖化に伴う気候変動や異常気象、台風や地震災害、ウクライナや中東などでの大規模な地域紛争など、予測困難な事象が次々と起こっています。よくVUCA(Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity)と言われますが、今後も変化が大きく、不確実、複雑さが増し、曖昧な時代が続く、と覚悟せざるを得ません。

その様な中で企業も、より本質的に、常に学び、広く協働し、絶えず進化することを一層求められている、と受け止めています。

本技報のテーマでもありますが、脱炭素を含めた地球環境問題にしっかりと取り組み答えを出すこと、サステナブルであること、が企業に求められています。当社は、所謂Scope1+Scope2の炭素排出を、2030年度で2013年度比50%を削減、2050年度ではカーボンニュートラルになることを目標としています。また外数で、炭素削減に資する当社商品(エコプロダクト)の提供等を通じ、サプライチェーンで2030年度に約4割相当の炭素排出を削減することを目指しています。OVAKOは既に2022年1月から生産面で全社カーボンニュートラルとなり、グリーンスチールを販売しています。2023年9月には欧州民間企業初の大規模グリーン水素電気分解装置も稼働、既に世界のトップランナーである低位の炭素排出量を更に削減していきます。SSMIも当社グループで最初にSBT(Science Based Targets)認定を取得しており、今年の夏から再生エネルギーの購入を開始、自社の製造工程で排出する炭素を25%程度削減します。日本製鉄も含めた4社の知見を活用しながら、全ての面でサステナブルな社会実現に貢献できるよう、先頭を走っていく所存です。

この取り組みを一層確実にしていくためには、グローバルに、技術先進性を基盤とした研究開発力、コスト競争力、緊密な連携力、何れも更に強化して参ります。「高信頼性鋼の山陽」「品質の山陽」と評される当社グループの技術先進性を一層磨くことに加え、営業・技術・生産が一体となって持続的な商品開発を行うこと。エネルギーなど世界的に見て割高な日本のコスト環境の中で、生産性の向上、省エネ・省力化に弛まず取り組むこと。既に一定の成果を上げている、生産の効率性改善、お客様への対応強化、調達コストの削減、安全の向上、品質管理や研究開発の連携深化を含めた、グローバルでの4社協業を一層加速させること。これら全てを粘り強くやり遂げることで、今後も世界をリードする企業グループであり続けることが可能だと考えています。

冒頭に申し上げましたが、VUCAな時代に全ての事象を事前に想定し対応することは不可能です。「選択と集中」をする勇氣、一方で変化に即応出来る「瞬発力」を持つ努力、などが必要な中、当社が多様な価値観やリソースをグローバルに有していることが、お客様、株主、そして社会の期待や信頼にお応えできる源泉になることを確信しています。

今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。